

巻頭
記事

11月例会開催／11月例会を終えて

県研修事業開催「人口減少の時代をどのように乗り切るのか？」
卒会にあたり／彩気煥発～さいきかんぱつ～／12月例会に向けて
『人間力を磨く』vol.4「人を見いだす力」
第73回中小企業団体全国大会参加／「Irotoridori」
現役No.1～彩～／私の愛しゃ精神／
12月役員会報告

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 奥森秀夫 ◆編集責任者／担当 副会長 渡邊公平 ◆制作・編集 第47期広報委員会／委員長 下村英一

11月例会開催「SNSをもっと知り、企業の未来を切り開く」

11月15日、米子市観光センターにおいて、広報委員会担当による11月例会が開催された。



冒頭の奥森会長のご挨拶では、「コロナ終息後のビジネスプランについてしっかりと考えて、さらなる発展をしていただきたい」旨を述べられ、また、本例会のテーマであるSNSについて触れられ、「SNSについて既にやられている企業もあると思いますが、考えもしなかった企業もあると思います。本例会を通して、皆さんがまた新たなチャレンジをしていく、そんな有意義な一日にしてください」と述べられた。

委員長タイムでは、政治行政委員会の宇佐見委員長より、所属しているエレクトクス株式会社の紹介や、エレクトクス株式会社の業務に関連する信号機について、全国の信号機の数や電球式からLED式への変化などの信号機の進歩の歴史、進歩することによるメリットデメリット、デメリットへの対策などを説明された。当たり前になっている信号機も時代に応じて改良が行われ進化してきており、信号機だけでなく何気なく行っている仕事を時代に变化させて改良・進化させていくことが必要であると感じかされた。



本例会は広報委員会の手作り例会であり、「SNSをもっと知り、企業の未来を切り開く」をテーマとし、2部構成で行われた。

第1部ではテーマを「もっと知ろうSNS」とし、「川口商店の挑戦」と題した川口会員主演の広報委員会オリジナルサクセスストーリー映像を交えながらSNSの知識と活用事例について渡部会員、小坂会員、小原会員から解説が行われた。

渡部会員から、そもそも「SNSとは」、といったところから、SNS(LINE、Facebook、Instagram、Twitter)ごとの使用人数、年代比率、長所などの

基礎知識や使用方法、テクニック、活用事例、用語の説明等が行われた。

続いて小坂会員から、「SNSとホームページの関係」について説明が行われ、SNSを利用しているからといってホームページを開設しないだけで良いというわけではなく、SNSとホームページを連動させるクロスメディア戦略が重要であると発表された。

そして、小原会員から「炎上」について炎上の定義や具体例、炎上しないための方法、炎上した場合の対処法や、SNSを使用したリクルートである「ソーシャルリクルーティング」について各SNSの特徴ごとに解説が行われた。

第2部ではテーマを「SNSを通して自社を考察する」とし、第1部で学んだことを基に、会員企業の課題や今後の目標・事業展開などについて、SNSを用いてどのように解決することができるのか、ということについて会員各自で考え、考えた内容を発表した。発表することで発表した会員はもちろん、発表しない会員もさらにSNSやその活用方法をより身近なものとして



感じるようになってきた。最後に、渡邊副会長より、当会会則第1条に「経済環境に対処し、経営の合理化および組織化を進める」とあり、「SNSの可能性や中小企業における課題を解決する選択肢の1つとなったと思います。」と述べられた。

なじみ深いSNSについて今一度1から学び、メリットデメリットを知ることで、今後の会員企業の新たな一歩を踏み出す機会となる大変有意義な例会となった。

(記事：小原)

11月例会を終えて



皆様、11月例会にご参加いただきありがとうございました。本例会は「SNSをもっと知り、企業の未来を切り開く」というテーマでSNSについて学んでいただきました。SNSが普及したことにより、広報活動やリクルートの在り方が多様化している今、企業として時代の変化に対応しなければなりません。そして企業の成長と発展にSNSが重要な役割を担う時代となってきております。この度の例会を通してSNSをまだ活用されていない、またすでに活用されている会員企業においてもその可能性や魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。また迫真の演技をみせた川口会員主演のサクセスストーリーも楽しみながら学びを深めていただけたと思います。例会・懇親会にご参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

最後に、手作り例会ということで委員会メンバーには獅子奮迅の活躍をしていただき、そのおかげで素晴らしい例会を作り上げる事が出来ました。改めて皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました！！

広報委員会委員長 下村 英一
(山陰建設サービス株式会社 営業部 営業二課 課長)

県研修事業開催「人口減少の時代をどのように乗り切るのか？」

11月13日(土)米子コンベンションセンターにて鳥取県中小企業青年中央会研修事業が開催された。新型コロナウイルス感染拡大の影響で県事業はオンラインでの講演、また中止になった事業もある中、約2年ぶりに各地区の会員が集まり、ZOOMとのハイブリッド開催として行った。永井県会長は冒頭の挨拶で「東部、中部、西部の皆様が集まっただき県の研修事業を開催できることを非常にうれしく思う」と述べられた。そして研修事業のテーマが人口減少についてということで鳥取県の人口と県民所得に触れられ「鳥取県の人口推移や県民所得をみると低い水準にある。我々はこうした状況下でも新しいことにチャレンジし、利益を確保できる経営戦略を立てていかなければならない。本日は研修事業を通して他地区の会員との活発な意見交換を行っていただき実りの多い事業にしたい」と述べられた。

今回の県の研修事業は、講師に株式会社Beansの遠藤彰氏をお招きし、「人口減少の時代をどのように乗り切るのか？」というテーマで講演とワークショップを行った。講演では経済学者のP.Fドラッカー氏の考えを基に、人口減少という社会の変化に対してどのような意識を持つかなどをお話いただいた。また、講演の中で各会員が考え、グループワーク形式で話をする中で、なかなか交流ができていなかった他地区の会員とも意見交換を行うことができた。また研修事業後に行われた交流会では、和やかな雰囲気の中、会員同士が話をするのができ親睦を深める良い機会となった。

(記事:高見)



～卒会にあたり～

三嶋 秀文 みかも秀文行政書士事務所 所長



第38期に入会させて頂き、ここまで続けられましたこと、家族や先輩、そして今ともに活動している会員の皆さんに感謝申し上げます。あまり大層なこととは言えませんが、卒会にあたって「変わらないもの、変えてはいけないもの」という言葉を送りたいと思います。

時代に応じた新しい思考や変化がなければ会の発展はありませんが、一方で、先輩たちが築き上げてきた中央会の長い歴史を見たときに、絶対に「変わらないもの、変えてはいけないもの」があるはずです。それが何なのか、私も卒会間際になってようやく分かり始めたところですが、今まで何気なく唱和していた綱領の言葉の重みを噛み締めることができるようになりました。謎解きのようなのですが、皆さんも活動の中で一度考えてみて下さい。

「時代に挑み、次代を創る。」

これができるのが中央会であり、中央会の使命であると思っています。県西部を代表する青年経済団体の一員としての誇りを持って、これからもともに頑張りましょう。

彩気煥発 ～さいきかんぱつ～

四字熟語「才氣煥発」の意味には才能が輝くこととあります。中央会を彩る、キラリと輝く会員を紹介します。

ビジネス経営委員会 水野 裕仁(住友生命保険相互会社 米子西支部長)

私の好きなことは、「キャンプ・登山…」と書くことも考えましたが、どれも「趣味」と明言されている方には敵わない状況で、もしかすると無趣味では無いかと最近感じています。そんな無趣味な私ではありますが、昨年から継続していることがあります。それは、「ダイエット」です。社会人になり、右肩上がりが増えていく体重…。弊社も「Vitality(健康増進)」をキーワードに商品を提供していますので、コロナの緊急事態宣言が全国に発令されたのをきっかけに、自分自身にも緊急事態宣言を発令し、ようやく重い腰を上げました。運動や食事制限等も行いましたが、一番効果的だったのはYouTubeの筋トレ動画でした!!最大10kg程度の減量ができ、体も筋もなった気がします。現在は、運動や筋トレはサボっており、少し増加傾向ですが、体重計に乗ることは続けています。何事も「継続は力なり」だと思いますので、この中央会活動も継続する中で、自分を磨いていきたいと思っています。



12月例会に向けて

地域彩り委員会委員長 安藤睦男
(山陰フェンス工業株式会社 専務取締役)



この度、12月例会では「鳥取の魅力を再認識し、地域の特性を活かした事業展開について学ぶ」をテーマに例会を開催します。鳥取県は現在、人口最少県、少子高齢化、公共交通の不便さなど他地域と比べて課題が多くあります。その多くの課題をビジネスチャンスと捉え、県内外から鳥取の魅力を感じ数々の地域の特性を活かした事業を展開されている経営者を委員会で発掘しております。第1部では県外から移住され我々に無いような視点や価値観から魅力ある事業展開をされている方々から事例を紹介いただき、ビジネスに於いての鳥取の魅力を再認識します。第2部ではクレイジー8という手法を使い会員同士意見交換を行い新たな事業展開を考える場とします。

「課題先進県」鳥取のすばらしさを再認識することにより会員のアイディアやスキルを活かし地域の特性を活かした新たな事業を考える機会となるよう準備を進めています。当日は是非たくさんの方の会員に参加いただければと思います。

人間力を磨くvol.4 “人を見いだす力”

マルチパーフォーマー 進藤ゆかり氏にお話を伺いました。

第3編集部/河津孝彦(リーダー)、
金山勝、小坂泰彦、高見秀幸

「人間力を磨く」をテーマに本連載も4回目となりました。「人間力を磨く」というと自身にスポットを当てがちですが、他の人を見いだしてその人の力を伸ばしていく、周囲の人間力を「磨いてもらう」こともまた重要なのではないのでしょうか。

今回は、司会・ピアノ・キーボード・ヴォーカル・音楽指導・声優・役者・学校での講師など様々な仕事をしておられ、マルチパーフォーマーとも呼ばれる進藤ゆかり氏を取材させて頂きました。いずれの活動においても進藤氏の力を勉強しようと見学に来られる方がおり、観察力・育成力・コミュニケーション力において第一人者といえる同氏に「人を見いだす力」をテーマにお話を伺いました。



～何気ない会話も全て相手を観察するチャンスである～

進藤氏「さっきまで雨降っていたのに止みましたね～。誰か(運)持ってますね!」
下村委員長「僕ですね!(笑)」

上記は取材当日、駐車場で挨拶を交わした後、取材場所に移動する際の会話の一部である。その一連の会話でなんと進藤氏は、今日の取材の雰囲気はどういったものになるのかをすでに想定されていたという。何気ない会話も全て相手を観察するチャンスである、というのだ。会話の中でキャッチをしっかりとし、その後の展開を考えて瞬時にプランを立て臨機応変に対応していく事が大事。講演などにおいても、作った資料のみを話すのではなく、相手の反応を見ながら、冗談も織り交ぜたり、話し方で緊張感も持たせたり、テーマをその場で決めて話される。どのテーマで話しても、行き着く所は同じ。共通点は必ずあるのでそこに持っていく、ということだ。学校で授業をする場合でも、生徒の反応を見て瞬時に内容を変える。できた!ということのを皆で共感することを大切にされているからである。

相手の空気感を感じ取り、相手の目線でどう思っているかを考えながら話し、臨機応変に対応していく進藤氏だが、普段行動する上で考えておられることがあるという。



＜行動する上で考える5つのこと＞

- ① 自分のやりたいことをやっているか。
- ② それは自分のやり方でやっているか。
- ③ それをやることで得るものはあるか。
- ④ あなたはいま幸せですか。
- ⑤ あなたの周りの人は幸せですか。

この5項目のうち、①～④のYES/NOに関わらず、⑤がNOであれば周りからの信頼がなく、YESであれば周りから信頼されているとのことだ。なぜなら、周りの人が幸せかどうかは、周りを観察しコミュニケーションをとっていないと分からないからである。

そのコミュニケーションを取るには、いつでも色々な人の目線で話せ、また話しやすい人であればいい。相手の目線で考えるのに相手の人・立場などをよく観察するということが大事となるのである。

周りをよく観察し、相手の目線でどう思っているのか、どうしたいのかを考え、それをサポートすることによって相手の成長を促すことができる。よく観察しているからこそ相手の特性にも気付くことができる。人を見るといってもその見方は様々であるが、会話・表情・声、仕事・家庭・趣味など全てのことで相手をしっかりと観察する。観察眼をしっかりと持つことで、人を成長させるためにどう接し、どう対話していくのが良いかが感じ取れ、また臨機応変な会話によって、相手の興味を引き、さらなる成長を促すことができるのではないだろうか。



取材を終えて

挨拶から相手の雰囲気を観察し、展開を考える観察力と臨機応変さ。相手が興味を持ちそうな話題を出して聞きたいと思わせる会話術。その会話も相手の反応を見ながらさらに変化させていく進藤氏。取材中、進藤氏だからこそできるのではないか。いや、これは自分でもできるかもと考えた。そう思わせることが私の役目と後で言われた時、本当に進藤氏はすごい方だと感じました。

(第3編集部/河津)

第73回 中小企業団体全国大会参加

県出向理事 政治行政委員会 長谷川 恵一 (HASEGAWAテクニカ株式会社 専務取締役)

令和3年11月25日、第73回中小企業団体全国大会が神奈川県横浜市で開催されました。「人を「絆ぐ」、組織を「結ぶ」、地域を「紡ぐ」ポストコロナは変革の時代、連携と革新で躍進する中小企業へ!」の大会テーマのもと、全国の中小企業が直面する様々な課題・将来に向けて取り組むべき事柄についての共有をされました。大会後は鳥取県青中の会員で親睦を深めました。日々目の事柄に忙殺されがちではありますが、社会は急速にグローバルな規模で変化していることを再認識し、広い視野と感性を持つことの意義を感じた大会参加となりました。



irotoridori

第47期会長 奥森 秀夫

私は仕事柄からなのか、色というものに目がいてしまいます。世の中には色がついていないものは殆どありません。皆様は色彩心理学という言葉は聞いたことがあるでしょうか？

色にはそれぞれの特徴があり、私たちの心理や行動に大きな影響を与えていると言われています。例えば赤色は「情熱・活力」というエネルギーをイメージする色ですが一方で「怒り・攻撃」というネガティブなイメージをする色でもあります。それぞれの色には自分や周りの人の心身に与える影響というものがあるとのことですので自分の気持ちの状態によって身に着けるものを変えるといい影響が出るかもしれませんね。また、ネクタイ、シャツの色を変えるだけで人に与える影響も変わりビジネスにも繋がるかもしれません。是非、一度、お試しあれ!!

現役No.1～彩～

ビジネス経営委員会 伊澤 佑矢
(米子信用金庫 審査管理部長)

現役No.1の原稿オファーを受けましたが、趣味も特技も自慢できるようなことは特にない…どうしよう…何を書けばいいんだろうかと悩みました。悩んだ末、唯一負けないであろう、経験豊富なことは「腰痛」についてしかならない…このことを書くことにします。腰痛との出会いは中学生のときで、脊椎分離症と診断されました。その後の腰痛人生は高校時代の椎間板ヘルニア、社会人4年目で椎間板ヘルニアの手術、そして3年前椎間板ヘルニアで救急搬送されました。40年強の人生において腰痛問題に悩まされる時間が多く、おかげで腰痛に関する知識、薬知識、対処方法は人より負けない自信があります。重いものはしゃがんで持つ、座るときは骨盤を寝かせない、呼吸は腹式呼吸で体幹を意識する、ストレスをためないetc…。腰痛は人生の「彩」を奪います。皆様、人生の彩りのためにも腰痛には気をつけましょう!



私の愛しや精神

地域彩り委員会 豊嶋 翔矢
日産プリンス鳥取販売株式会社 米子二本木店

皆様こんにちは!貧乏暇無し&元気が1番、とびきり爽やかな笑顔と真顔と真心で、当会OBの福山輝展氏と日々営業活動に勤しむ日産プリンス鳥取販売株式会社のプリンス豊嶋です!という長ったらしい自己紹介で文字数を稼いだところで本題に入らせて頂きます。

この度、私の愛しや精神という事で原稿依頼を頂きましてありがとうございます。私の愛車ではないですが、私の愛する日産プリンス鳥取がおススメしている車で新型車のオーラNISMOです!

日産の誇る電気のパワーを小さなボディに宿したモンスター!ぜひ皆様ご覧あれ!
あ! 安藤委員長、車を買う買って、いつ買うんですか?今でしょ!!
失礼致します…。皆様ありがとうございました!



12月役員会報告

令和3年12月1日(水)米子コンベンションセンター 会議室5にて12月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- 11月例会開催の件
- 第7回大山お地蔵さまフェスティバル第2回実行委員会開催の件
- 12月例会開催の件
- 1月新年例会開催の件

※なお詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

早いもので今年も残り、僅かとなりました。中央会に入会して1年半ほど経ち、積極的な活動をする事の大切さを学ばせていただきました。前期は控えめ、今期はアクティブにそして、来年はアグレッシブに活動に取り組みたいと思っております。懇親会参加したいですね。

(広報委員会 川口慎司)